

# 磐梯山ジオパーク

## 基本計画

(計画期間:令和3年度～令和11年度)

BANDAISAN GEOPARK ACTIONPLAN



令和3年

7月

磐梯山ジオパーク協議会

## はじめに

磐梯山は、1888年（明治21年）の大爆発により多くの犠牲者を出しましたが、その後の植林、開発、国立公園指定などに多くの先人たちが多大な力を注いだことにより、今日を迎えています。

磐梯山は、眺める方向により「会津富士」と称される優しくなだらかな山容と、大噴火の爪痕を今なお残す荒々しさ、という対照的な二つの姿を持っています。さらに、麓には、日本有数の透明度を有し、天を映す鏡（天鏡）に例えられる猪苗代湖や、明治の噴火によって創り出された大小300余りの湖沼群が織りなす水と緑の美しい裏磐梯高原が広がっています。大自然が創り出した地質学的価値と美しい景観を併せ持つ磐梯山は、まさに福島県を代表する山であり、私たちにとってかけがえのない貴重な財産です。

また、磐梯山は山岳信仰に彩られた歴史の山でもあります。平安時代初期に南都法相宗の高僧「徳一」によって開かれた「磐梯山慧日寺」があります。ここは、霊峰磐梯山を仰ぎ、会津盆地を眼下に望む丘陵地帯に位置し、東北最古の寺院といわれる貴重な歴史的文化的文化遺産であり、会津仏教文化発祥の地と称されています。

これら貴重な地質資産と自然・文化遺産を地域づくりに活かすため、磐梯山周辺の3町村（猪苗代町・磐梯町・北塩原村）が中心となり、平成22年に磐梯山ジオパーク協議会を設立し、地域一体となって活動を進め、その結果、平成23年に日本ジオパークに認定されました。

磐梯山ジオパークでは、これらの多様な資源を活かし、保全・観光・教育の3つの柱を軸にした活動を通じ、将来に亘っての持続可能な地域づくり・観光振興を目指します。

そして、「ユネスコ世界ジオパーク」への加盟を目標とした活動を実施していくなかで、貴重な地質資源や文化、歴史、地域の宝を次世代に継承し、ツーリズムとしての価値を高め、国内外から多くの人を受け入れられる環境整備等を実施し、より質の高い自然公園をつくり上げていきたいと考えております。

この基本計画は、当ジオパークの指針となるよう、目的や活動目標などの基本的な事項を記したものです。この「基本計画」を地域の方々と共有し、理解を深め、地域の持続可能な発展に向けた更なる取組みを、協働していきたいと考えております。

## 目 次

### 磐梯山ジオパーク基本計画

○基本計画の改訂について	1
○目標とするユネスコ世界ジオパークについて	
◇ユネスコ世界ジオパークの目的	1
◇世界ジオパークに求められる要件	1
○磐梯山におけるジオパーク活動の推進	
◇目的	2
◇テーマ	2
◇特徴	2
◇位置	2
◇地勢	3
◇地形	3
◇気候	3
◇計画期間	4
◇運営体制	4
◇協議会の構成	5
◇事務局体制	5
○磐梯山ジオパークの活動理念を達成するための3つの柱	
◇保全	6
◇観光・ツーリズム	6
◇教育	6

### 磐梯山ジオパーク実施方針

○基本方針	7
○趣旨	7
○主に実施していく取り組み	7
① 保全計画の適切な運用（エリアとジオサイトの保全、管理）	8
② 調査研究の推進（成果の活用）	9
③ 教育活動の普及（学校教育と生涯教育の充実）	10
④ ツーリズムの活性化（産業振興と観光の高付加価値化）	11
⑤ 情報発信の強化（多角的な情報収集の実施）	12
⑥ 住民の理解と参画の促進（地域活性化と防災意識の向上）	13
⑦ ネットワーク活動と運営体制の強化（持続可能な運営）	14
○磐梯山ジオパーク基本計画の成熟に向けた取り組み	15

# 磐梯山ジオパーク基本計画

## ○基本計画の改訂について

磐梯山ジオパーク（本ジオパーク）の基本計画は、平成26年に策定したものを基礎として平成27年の再認定審査を受けて修正したものである。その後、細かな修正等を行ってはきたが、令和元年度の再認定審査において、改めて修正の必要性が提案されたため、現在の状況に応じた基本計画を策定し、明確な目標、課題解決の考え方を記したものである。

この計画をもとに、地域の課題解決に向けたジオパーク活動の有用性や成果を地域の強みとして認識してもらえよう、一人でも多くの地域住民と情報等を共有し、活動の見える化につなげていく。さらに、アンケートやイベント参加者からの聞き取りなどにより意見や情報の収集を行い、地域住民の方々が理解し、ジオパーク活動への興味関心を高めていけるよう検証を行いながら、協議会が一体となって基本計画の成熟を目指していきます。

## ○目標とするユネスコ世界ジオパークについて

### ◇ユネスコ世界ジオパークの目的

地球科学的にみて特別に重要で貴重な、あるいは美しい地球活動遺産を複数含む自然公園の一つであり、その貴重な遺産を ①適切に保護・保全し、②教育・研究に用い、③観光・産業などに活用することにより、持続可能な地域発展を目指すプログラムである。

### ◇世界ジオパークに求められる要件

- 地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- 公的機関、地域社会、民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
- 博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
- それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- 世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

## ○磐梯山におけるジオパーク活動の推進

### ◇目的

磐梯山地域(以下「当地域」という)では、魅力ある資源を活用し、これまでも研究や教育活動、エコツーリズム・ジオツーリズム等の取り組みを行い、地域内外の人々に学びと観光の場を提供してきました。また、火山と向き合ってきた当地域では、噴火災害の経験から、住民・行政・学識者とが連携をして、地域減災に関する取り組みが行われており、当地域の減災文化を地域内外に継承していくことにつながっている。

今後は、さらにジオパーク活動の浸透を図り、地域住民が当地域を深く理解し、協働による活動を充実させ、持続可能な地域づくりを目指すとともに、当地域が一丸となって「ユネスコ世界ジオパーク」加盟を目指していけるよう、活動の充実を図っていくことを目的とする。

### ◇テーマ

『磐梯火山の誕生と変遷、特に水蒸気爆発による山体崩壊と岩なだれがもたらした大規模な地形および自然環境の変化についての理解を深めること、同時に、磐梯山が人々の生活や歴史に与えた影響およびそこで形成された独自の文化について学ぶことである。』

### ◇特徴

本ジオパークの象徴である磐梯山は、東日本火山帯の火山フロントに沿った、東北地方を代表する活火山である。眺める方向により、会津富士とも称されるやさしくなだらかな山容と、噴火の爪痕を今なお残す荒々しさという対照的な二つの姿を有しています。

さらに、磐梯山の麓には、日本有数の透明度を誇り、天を映す鏡(天鏡)に例えられる猪苗代湖や、明治の噴火によって誕生した大小300余りの湖沼群が織りなす水と緑の美しい裏磐梯高原など、大自然が創り出した地質学的価値と美しい景観を併せ持ち、福島県の象徴であるとともに県民のかけがえのない貴重な財産のひとつである。

### ◇位置

本ジオパークは、福島県のほぼ中央部に位置する猪苗代湖の北方にあり、磐梯山を中心とした主に2町1村(猪苗代町、磐梯町、北塩原村)のエリアである。東京都からは266km、車で約3時間の距離にあり、最寄りの福島空港までは、約70分の距離にある。

## ◇地勢

本ジオパークは、福島県のほぼ中央部に位置し、東北地方の脊梁をなす奥羽山脈の一火山である磐梯山を中心とした地域で、その周辺には標高400m～800mの高原地帯が広がる。面積は688.63km<sup>2</sup>で、福島県土面積の約5%を占めている。地域の中心に標高1816mの磐梯山がそびえ、南側に猪苗代湖、東側に川桁断層崖と安達太良連峰、北側は標高2000mを超える吾妻連峰で囲まれ、西側には、雄国沼湿原をもつ猫魔火山のカルデラがある。

本ジオパークでは、表磐梯、裏磐梯という通称が使われ、磐梯火山を中心に、南側のすそ野に猪苗代湖と水田地帯の広がるエリア(猪苗代町・磐梯町)が表磐梯、北側の五色沼を含む湖沼群エリア(北塩原村)が裏磐梯と言われている。

## ◇地形

磐梯山北側は明治の噴火による馬蹄形の火口(カルデラ壁)が残り、標高差300～500mの火口壁はあまり風化を受けず火口原の平地からそそり立っている。大きな山体の成層火山である猫魔火山の南斜面には磐梯町が広がり、豊富な清水や山岳宗教で栄えた慧日寺、磐梯火山の翁島岩なだれによる流れ山が町内各地に残っている。猪苗代湖北岸は遠浅で水生植物が多く繁茂し、ここに続く水田地帯が猪苗代町の中心である。かつては猪苗代湖の水面は現在よりも高く、4万年前から2万年前頃には最高湖水面をもって最大に拡張していた。この時期の湖底に広がる平地が現在の猪苗代平野で、今は広大な水田地帯となっている。

磐梯山の東側には長瀬川を挟んで南北に連なる川桁断層崖がある。その断層崖の西面は猪苗代湖や猪苗代平野に急角度で落ち込み、崖の下部には大小の扇状地が広がり、見事な景観をみせている。この断層は猪苗代湖の形成にも深い関わりがあると考えられている。

## ◇気候

奥羽山脈の中心部の標高500m～1000mに広がる高冷地のため、冬期の積雪が多い日本海型気候を示す場所である。季節風が強い1～2月には、猪苗代湖に流れ込む長瀬川の河口周辺の樹木や岩に湖水の飛沫が凍結し、つらら状の「しぶき氷」が発生する。猪苗代町と磐梯町の平均気温は10℃前後で、裏磐梯地区は標高が800m前後であるため、2～3℃低い値となる。気温が最高25℃を超える夏日も会津若松市では100日を超えるが、裏磐梯地域では40日程度と少ないため、避暑地に適して冷涼な気候の場所となっている。

## ◇計画期間

この計画は令和3年度から令和11年度までの9年間とする。令和3年、7年、11年に再認定審査が実施される予定であり、3年度の再審査を受け、次の4年間で検証・修正を行う。令和8年度からの4年間で、活動の検証、継承、深化などにより持続可能な活動を目指す。

## ◇運営体制

福島県、構成町村、関係機関、事業者や地域住民が一体となった活動を協議会が中心となり推進していく。また、3町村におけるジオパーク活動の深化を図るため、各町村においてジオパーク専任の地域おこし協力隊や会計年度任用職員を雇用し、専門員・行政職員・地域おこし協力隊及び会計年度任用職員・各町村の事務局支援員が協力し合い、地域住民との協働による地域ごとの課題解決に向けた活動の推進を目指す。

さらに、総会、運営委員会、及び各部会（調査研究・広報啓発・教育普及）の強化と活性化を図り、それぞれの視点で課題解決に向けた目標の設定、実践・運用、点検・検証、見直し審議（PDCAサイクル）による進行管理を行い、社会・経済・文化の発展、地域住民による郷土愛の醸成を図れる運営体制の構築を目指す。

### ■構成町村（事務局）

磐梯町、猪苗代町、北塩原村の3町村が担当職員を配置して、専門員とともにジオパーク活動の推進を図る。会長が所属する観光担当課が運営全般の事務を担う。

### ■ジオパーク専門員

各町村の行政職員との連携強化を図るとともに、地域おこし協力隊及び事務局支援員の推進活動をマネジメントし、ジオパーク活動の深化につながる活動の支援を行う。

### ■運営委員会

各町村の観光担当及び教育委員会、観光協会、商工会、関連施設、ガイド団体等の民間団体で構成し、主として総会に付議すべき事項の審議、協議会運営についての具体的検討を行う。

### ■調査研究部会

学識経験者等で構成し、説明資料等に関する助言や保全活動に関する検討を行う。

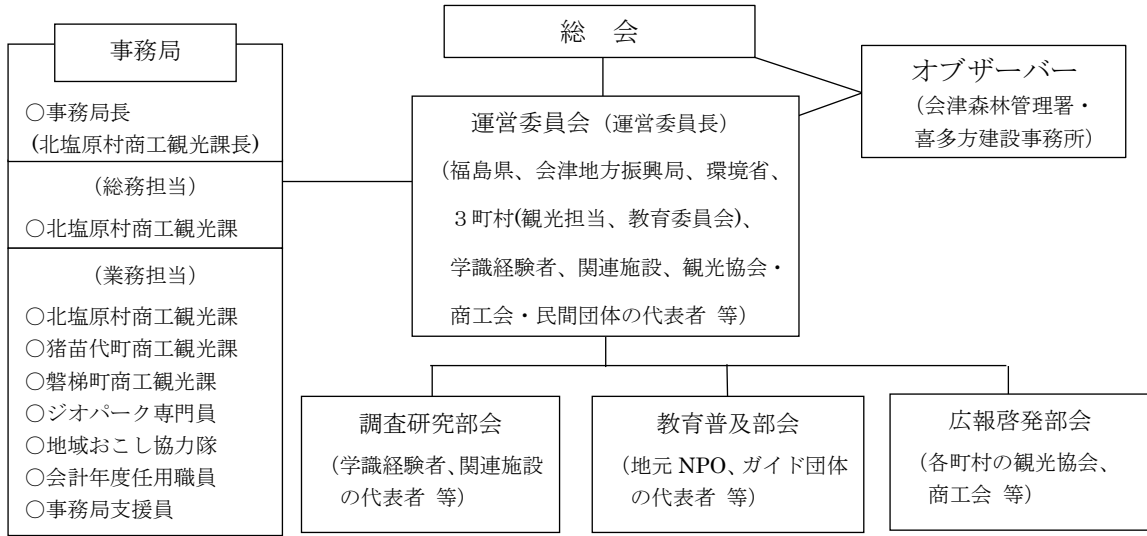
### ■広報啓発部会

観光協会や商工会で構成し、ジオツーリズムの推進全般に関する検討を行う。

### ■教育普及部会

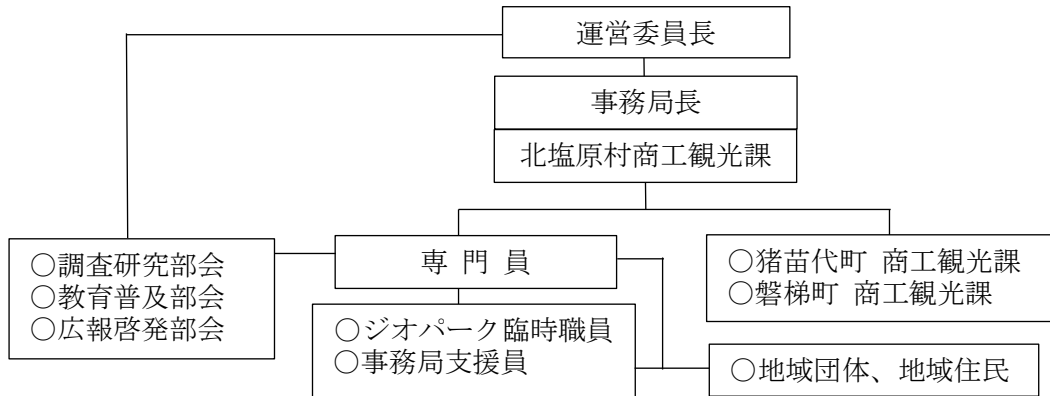
ガイド団体や地域住民団体で構成し、分かりやすい普及啓発等に関する検討を行う。

◇協議会の構成

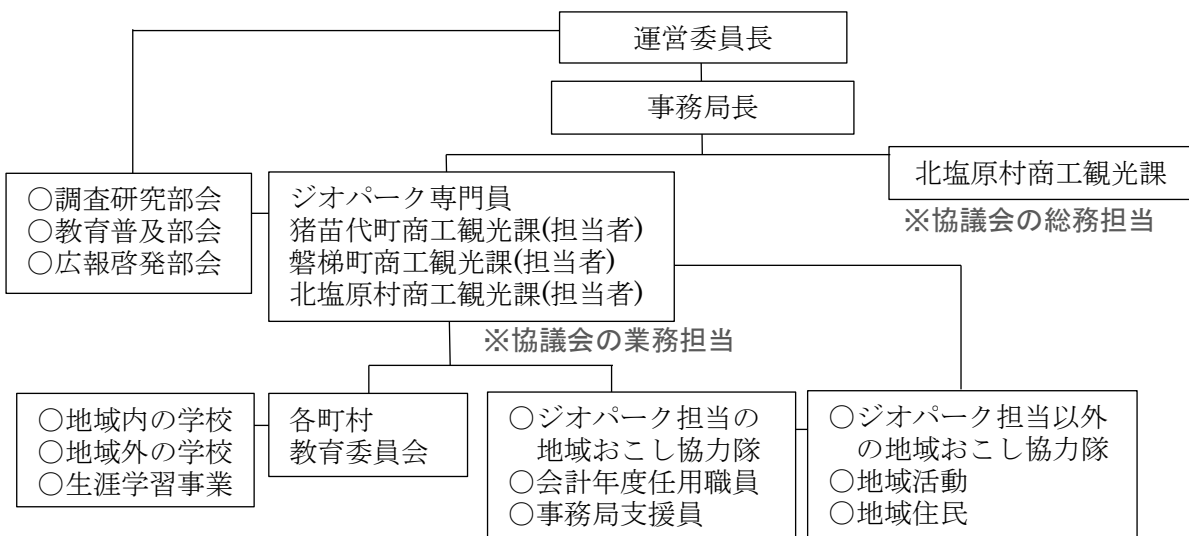


◇事務局体制

【令和2年度までの体制】



【令和3年度以降の体制】



## ○磐梯山ジオパークの活動理念を達成するための3つの柱

### ◇保全

- 地質地形・生態・歴史文化遺産の価値を学術的な裏付けをもとにした評価の徹底を図る。
- 保全計画の適切な運用により地質遺産等を保全し、活用しながら、持続可能な地域づくりにつなげる。

#### <地域への貢献>

- これらの地質遺産等を保全することにより、大地の成り立ち、自然環境の変遷、人々の生活や文化形成の歴史を守り、地域で継承していくことを目指す。

### ◇観光・ツーリズム

- 大地を構成する地質地形、その上に形成される動植物などの環境・生態、大地と環境により育まれてきた歴史・文化、これらの遺産を結びつけたストーリーのあるツアーの実施を目指す。

#### <地域への貢献>

- 地質地形、自然環境、歴史などを単独で知るのではなく、それらを一つのストーリーとして捉え、地域を理解し、楽しむことにより、観光の高付加価値化を目指す。

### ◇教育

#### 【学校教育】

- 座学とフィールドが連動した学習プログラムの提供により、地域の自然や防災に関する教育活動の更なる推進を図る。

#### <地域への貢献>

- ジオパーク学習は、効果的な郷土学習の機会を創出しており、更なる充実を図る。
- この学習を通して自らの郷土に誇りを持ち、郷土離れの防止に活用していく。

#### 【生涯学習】

- 地域の自然やそれと結びついた歴史・文化に関する講座や講演会を開催し、地域に興味を持つ住民を増やしていく。

#### <地域への貢献>

- 地域住民が地元の自然や歴史文化に関する様々な情報を知りたいという気持ちに応え、その知り得た知識を伝えられる喜びが得られる場を提供していく。

## 磐梯山ジオパーク実施方針（令和３年－令和７年）

### ○基本方針

本ジオパークの目標であるユネスコ世界ジオパークの加盟を目指すうえで、これまでの成果や課題をもとに、今後５年間の活動に関する基本方針を定める。

### ○趣旨

令和元年度の日本ジオパーク委員会による再認定審査において、条件付きでの再認定となったことをふまえ、内容を拡充した保全計画とともに基本計画を一新し、磐梯山におけるジオパーク活動の活動方針を定める。

また、磐梯山ジオパークが目指す世界ジオパークは、平成２７年１１月に国際連合教育科学文化機関（以下、「ユネスコ」という）の正式プログラムになり、ユネスコが目指す教育、科学、文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進という目的に沿った活動が求められるようになった。さらに「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」が平成２７年９月の国連総会で採択されたことにより、このアジェンダが掲げる目標であるSDGs（１７の持続可能な開発のための目標）の達成に貢献することが求められていることから、今回の改訂ではSDGsへの貢献についても検討していくこととした。

### ○主に実施していく取り組み

- ① 保全計画の適切な運用（エリアとジオサイトの保全、管理）
- ② 調査研究の推進（成果の活用）
- ③ 教育活動の普及（学校教育と生涯教育の充実）
- ④ ツーリズムの活性化（産業振興と観光の高付加価値化）
- ⑤ 情報発信の強化（多角的な情報収集の実施）
- ⑥ 住民の理解と参画の促進（地域活性化と防災意識の向上）
- ⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化（持続可能な運営）

## ① 保全計画の適切な運用（エリアとジオサイトの保全、管理）

### ◇これまでの主な成果

■磐梯山ジオパークエリア内における国立公園外のジオサイト保全計画の作成（令和3年）

■NPO法人裏磐梯エコツーリズム協会によるモニタリング調査への協力（平成29年～）

本ジオパークには磐梯朝日国立公園と重複したエリアがあり、国立公園内の自然保護とジオサイトの活用の両立を図ることが重要である。国立公園内にあるジオサイトについては、平成25、26年度に、環境省の協力を得て保全計画を策定している。その保全計画に基づいて、ジオサイトの再評価と新しいジオサイトの掘り起こしを平成27年度から進めている。

同時に、磐梯朝日国立公園外のジオサイトについても保全計画の策定に着手しており、保全上重要なジオサイトを選定し、保全カルテを作成、定期的なモニタリングを行っている。

### ◇今後の主な課題

持続的・安定的な活動の維持に加え 地球規模での課題への対応や、見どころの持続可能な利用も求められてきており以下の点が課題となっている。

■貴重な地形・地質資源、自然環境及び野生動植物の保護保全活動の推進体制の構築

■保護保全エリアの明確化

■保護保全のモニタリングに関わる情報共有・支援

■地域別課題の見える化と住民の活動団体との情報共有

■保護保全活動支援事業の充実による見所の持続可能な利用

■森林環境整備、水源、湖沼や河川などの環境問題への対応

■地質物品取引に係る防止対策の充実

### ◇課題解決のための基本的な考え

貴重な地域資源を適切に保護・保全することはジオパーク活動の基本である。このため幅広い関係者の活動と交流連携を支える推進体制を充実するとともに、地域の課題や資源の保存状況の見える化を進める。

また、保護・保全に加えて貴重な資源を有効に活用することは、地域の魅力向上と振興につながることから、環境省や地元企業と連携した取り組みを進め、世界的に大きな課題となっている多様な環境問題にもSDGsの貢献の観点から積極的に取り組んでいく必要がある。

## ② 調査研究の推進（研究成果の活用）

### ◇これまでの主な成果

#### ■ジオサイト調査

グリーンタフ地域（H30年～R元年度）

流れ山地形（R元年度～）

#### ■研究活動支援と成果の活用

立教、文教大学共同プロジェクト「自然災害からの復興における観光の役割」（H28年～）

筑波大学土壌環境化学研究室 土壌調査（R元年～R2年度）

磐梯朝日遷移プロジェクト福島大学磐梯朝日自然環境保全研究所（H24年～）

- ジオパーク内の地質遺産および生態、文化遺産に関する科学的研究は、遺産の意義やそれらを結んだストーリーを構築する上で基本的な重要性を有している。そのため、調査研究部会を中心に、新しいジオサイトの掘り起こしとその価値の学術的調査を実施した。また、大学等の研究機関によるジオパークエリア内での研究活動を支援し、その成果をジオパーク活動に反映している。

### ◇今後の主な課題

調査研究成果を更に地域課題解決へ活用する必要があり、以下の点が課題となっている。

- エリア内を対象とする大学や研究機関で実施された研究成果の場の設定と体系的な整理
- 学術研究奨励事業の（応募事業の創出）、調査研究支援制度の創出と発信
- ジオパークの研究成果を活かした地域学や学校教育との連携
- 優秀な調査研究を国内外で発表する青少年などの支援持続可能な地域づくりを推進する指導者の育成などジオパーク活動に参画する人材の育成強化
- 学校教育や社会教育地域活動において火山噴火、洪水や地震など災害に対する意識を高め被害の軽減方法について学ぶ機会の創造
- 気候変動が地域に及ぼす影響や再生可能エネルギーなど循環型社会への転換に関する意識の向上

### ◇課題解決のための基本的な考え、活動方針

磐梯山ジオパークのエリアを研究対象とする大学、研究機関等における研究活動を支援するとともに、その成果を地域人材育成や課題解決のために有効活用する。更に近年増加する様々な自然災害の発生に大きく影響する地域の地形や地質について学ぶ場を充実するなど、防災教育にも積極的に取り組んでいく。

### ③ 教育活動の普及（学校教育と生涯教育の充実）

#### ◇これまでの主な成果

##### ■学校教育

小中高生を対象とした教育活動の実施（地域内の全小学校でジオパーク学習を実施）

##### ■学校教育以外のジオパーク教育・普及活動（生涯学習など）

地域住民への生涯学習活動、幅広い来訪者を対象とした教育活動の実施

ジオガイド主導で学校教育と連動したジオパーク学習の実施（H30年～）

日本赤十字青少年リーダー育成研修ジオパークフィールド研修（H27年～）

磐梯青少年交流の家「チャレンジ・ジオキャンプ」（H24年～）

○学校でのジオパーク学習や地域住民向けの出前講座は、様々な団体との連携を図ること  
で、学校教育や生涯学習の枠を超えた体験やプログラムで活用されている。

##### ■将来プロジェクト

学べる磐梯山プロジェクト（教育旅行プログラム）

○学校教育におけるジオパーク学習は、主に地元の小中学校、高校までを対象に実施している。また、近隣市町村への出前授業にも対応・実施している。

○ジオパーク活動という取り組みや考え方のなかで磐梯山周辺についての学習機会を創出できることは、教育旅行プログラムとして高い評価を得ている。特に、火山の恵みと災害、災害からの復興に関する総合学習や探究学習にも対応している。

#### ◇今後の主な課題

様々な学習の実施と交流の場などでの取り組みにおいて一定の成果が上がっている。今後は、新しい学習指導要領を踏まえ、SDGsの理解促進や学校教育との連携強化、調査研究成果を地域課題解決へと活用していくことが必要であり、以下の点が課題となっている。

■体験を通じたジオパーク活動の推進やSDGs関連教育プログラムとの関連性の強化

■学習指導要領の改訂に対応したジオパーク学習の推進と学校教育との連携強化

■教育旅行の多様な学習に関するニーズ、情報収集、分析、プログラム開発の推進

#### ◇課題解決のための基本的な考え

教育・普及活動における取り組みは、未来のジオパーク活動を支える人材育成において重要である。このため、様々な体験学習の場と学習成果の発表の場を設けるとともに、学校教育と連携した取り組みの強化を図る。

#### ④ ツーリズムの活性化（産業振興と観光の高付加価値化）

##### ◇これまでの主な成果

###### ■磐梯山ジオパークフォーラムの開催（10回）

###### ■地質の日ジオツアーの開催

地域のガイド団体も有料ガイドとして自立した活動を継続している。

ジオパークの理念や要素も十分に理解し、自らの言葉で地域の魅力を紹介するとともに、確実な安全管理のもと、フィールドを案内できるガイドを養成してきた。

認定より毎年開催してきた磐梯山ジオパークフォーラムや地質の日ジオツアー等を通じて、ジオパーク活動の多様性に基づいたフォーラムや様々なジオツアーの実施、ガイドの技術向上など幅広い取り組みを進めており、一定の成果を上げている。

##### ◇今後の主な課題

多様化するニーズに応えられるよう専門的な知識を有し、町村のエリアを越えて地域全体の説明や解説ができるガイドの育成、ランドオペレーター、コンシェルジュといったエリアの楽しみ方をコーディネートできる人材育成が必要であり、収益事業として魅力あるものに進化させていく必要があると考えているが、ジオパークのストーリーと関連付けた魅力的で付加価値の高い商品やサービスの開発、地域経済の活性化には充分貢献できておらず以下の課題がある。

###### ■パートナーシップの強化によるジオツーリズムの推進

###### ■ジオガイドとアクティビティの進化

###### ■ジオパークエリアの特徴を生かした多様なツーリズムの展開

###### ■外国人旅行者などの受け入れ体制のサポート強化

###### ■商品の高付加価値化による安定したガイド収入の確保

###### ■ジオパークが地域の発展に効果をもたらしている成果の見える化

##### ◇課題解決のための基本的な考え

ジオパーク活動を安定的に継続して行くためには、地域の資源を有効に活用したツーリズムの振興など地域経済の好循環が不可欠である。このためジオパークの価値・魅力を伝えるためのストーリーを総合的な視点から再構築し、魅力的な商品の開発につなげるとともに、関連事業振興のための継続的で有効なサポート体制を整備していく必要がある。

ジオガイドや関連事業者、地域住民に求められるスキルアップを図るための継続的な支援の仕組みと住民、顧客、企業が連携して取り組める環境の整備に努めていきたい。

また、アドベンチャーツーリズムなども視野に、外国人旅行者の受け入れ体制の充実、商品の高付加価値化を目指していく。

## ⑤ 情報発信の強化（多角的な情報収集の実施）

### ◇これまでの主な成果

- ①講座・説明会・講演会・ジオパークフォーラムなどの開催、②各種イベントへの出展、
- ③各種印刷物の発行、④解説看板設置、⑤ウェブサイトの充実、⑥SNSを活用した情報発信
- ⑦関連商品の開発、⑧PR動画の制作

メインテーマを軸に、4つのサブテーマと5つのジオストーリーを設定した。

様々な媒体を活用した情報発信を継続的に取り組み、磐梯山ジオパークの知名度・魅力アップに一定の成果を上げている。

### ◇今後の主な課題

効果的で戦略的な広報を進めていく観点から以下の課題への取り組みが必要と考える。

- Web媒体の効果的な活用による戦略的な広報の展開
- 遠方と来訪者で区別した紙媒体による情報発信力の強化
- 発信する情報の質・量の向上
- ジオパーク活動のレベル向上につながる様々な情報の収集

### ◇課題解決のための基本的な考え

ジオパークの活動を活性化していくためには、地域の内外を問わず磐梯山ジオパークに興味・関心を持つ人々を増やしていくことが重要である。さらに、この観点からジオパークに関する様々な情報を収集し、魅力的な情報を効果的に発信していくことが必要となる。

このため、従来の紙媒体に加え、SNSなどによる情報発信を強化するとともに、専門家の助言も受けながら、明確な訴求対象を設定して実施する。また、国内外のジオパークの優れた活動事例などに関する情報を収集し、活動のレベルアップにつなげるとともに、磐梯山エリアの優れた取り組みも積極的に発信してジオパークネットワークに貢献していく。

### 【サブテーマ】

- (1)「磐梯火山がつくられた舞台裏」
- (2)「二度の山体崩壊をおこした火山」
- (3)「驚くほど多様な環境と生き物たち」
- (4)「火山とともに生きる人々」

### 【5つのジオストーリー】

- ①明治の噴火をたどる物語（I・II）
- ②霊峰磐梯山の麓に根づいた信仰の物語
- ③猫魔カルデラが育む雄国沼と湿原の物語
- ④知られざる5万年前の噴火をたどる物語
- ⑤大地創造をたどるパノラマ物語

## ⑥ 住民の理解と参画の促進（地域活性化と防災意識の向上）

### ◇これまでの主な成果

- 磐梯山ジオパークフォーラム（構成町村持ち回りで年1回開催H22年～）
- ジオパーク講座、研修、説明会、コラボ企画や共済、後援事業などへの参加の場を設定
- 地質の日ジオツアーの実施
- ジオパーク活動に関連した専門家の講演会（専門家招聘事業）
- 火山災害を語り継ぎ、地域防災活動の輪をつくる拡大事業（地域住民、日本赤十字奉仕団）
- 住民と行政が共同で取り取り組むための事務局支援員制度の立ち上げ
- ジオサイト保全計画作成の調査書作成協力
- 食生活推進員との連携による地産地消の食育とジオパークカレーによる特産品開発事業
- 地元若手農家集団「ジオファーマーズ」の誕生とそのサポート

○地元住民が当地域の遺産の価値を知り、減災の知恵を学び、ジオパークを通じて次世代を担う子どもたちへ継承していくとともに、地域住民に向けた情報提供や勉強会等を積極的に実施している。関心度の高い人やジオパークガイド候補生などの発掘やジオパーク活動を支える地域住民が新たに加わる仕組みづくりにもなっている。

### ◇今後の主な課題

住民や地域活動プレイヤーや関係者と対話する機会の創出、それによる磐梯山ジオパークの理念や進むべき方向の欠如等の指摘などがあり、以下の課題があるものとする。

- 対話と連携による住民と協働するための仕組みづくり
- 協議会構成員等との連携強化
- 活動の裾野を広げる取り組みの強化
- 拠点施設の役割分担と機能強化

### ◇課題解決のための基本的な考え

住民主導のボトムアップ型活動がジオパーク活動の基本である。このため住民参加の仕組みを整え絶えず進化させることが活動を進める上での第一歩となる。

住民と様々な分野の関係者が議論を重ねる対話の場を可能な限り設定し、互いにジオパーク活動の理念と進むべき方向を共有できる環境を整えていく。

また、協議会構成団体やこれまで関係が構築できていない企業団体との協働事業を計画するなど、従来の枠を超えた連携にも取り組んでいく必要がある。

磐梯山ジオパークを訪れる人々がジオパーク活動や磐梯朝日国立公園、様々な地域プログラムをスムーズに体験できる環境づくりと、エリア内をストレスなく周遊できるよう、地域内の拠点施設等で容易に情報を得られる環境整備を強化し、地域住民とともに持続可能な地域づくりの実現を目指していく。

## ⑦ ネットワーク活動の推進と運営体制の強化（持続可能な運営）

### ◇これまでの主な成果

#### 【ネットワーク活動】

- 第2回 JGN全国研修会開催
- 日本ジオパーク現地審査員の派遣
- 第2回 東北ジオパークフォーラム開催
- 近隣ジオパークとの交流事業実施や講師の派遣
- JGN全国大会参加・分科会の運営
- 全国火山系博物館ネットワーク活動への参加

#### 【運営体制】

- 磐梯山ジオパーク協議会事務局専門員1名を正規雇用（平成27年度～）
- 学識経験者による定期的な職員指導・教育の実施（令和元年度～）
- ジオパーク事務局支援員制度の運用（令和元年度～：4名を任用）
- 地域おこし協力隊の雇用（令和3年度～：猪苗代町と北塩原村で各1名を採用）
- 会計年度任用職員の雇用（令和3年度～：磐梯町で1名を雇用）

### ◇今後の主な課題

各町村が定める振興計画等のなかで掲げている、広域観光の推進や活力ある多彩なツーリズムの推進、郷土の誇り・魅力の醸成などの課題解決に向けて、ジオパーク活動も含めた取り組みが行われている。

磐梯山の貴重な地質遺産と稀有な自然環境・文化・伝統を保全・教育・研究し、地域づくりに活かすため、福島県と磐梯山を囲む猪苗代町、磐梯町、北塩原村の3町村が事務局を運営し、各種関連団体等で構成される運営委員会を中心にジオパーク活動を実施している。また、これまで各町村・各団体で個別に取り組みされていた観光施策やガイドツアーの催行や管内の自然、地質、歴史・文化の調査・研究、自然保護活動、教育普及活動など、地域が一体となった取り組みを実施することを目的に、学識経験者、アドバイザーを含め27の団体及び個人で運営委員会を組織し、ジオパーク活動を実施しているが、以下の課題があるものとする。

- ジオパーク活動と全国的な地域づくり活動、持続可能な活動との連携事業の実施
- 他の国内ジオパークとの連携事業の充実
- 全体をマネジメントし、この基本計画の課題を検証、解決しうる運営体制の強化

### ◇課題解決のための基本的な考え

ジオパーク活動においてはネットワーク活動が重要視され、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有することで活動が発展してきている。その上で、共通の活動テーマや課題のある国内ジオパークとも交流を深め、活動のレベル向上につなげていく。

また、当地域にある公立公園プログラム、エコツーリズム、グリーンツーリズム、日本遺産プログラム、ヘルスツーリズム、アドベンチャーツーリズムなど、多様な活動との連携し、限られた人員と財源の元でも持続可能な体制となるよう見直しを進める。さらに、活動全般を総合的にかつ効果的に展開できる体制の強化を目指し、行政や地域と協働しながら事業の収益化に向けて取り組んでいく。

## ○磐梯山ジオパーク基本計画の成熟に向けた取り組み

(令和3年度～令和7年度)

■地域住民との対話によって、共に創り上げるジオパークを目指します。

■協議会が中心となって作成した基本計画について、地域へ情報発信を行い、住民の理解促進を図る。さらに住民との意見交換によるニーズや考え、様々な意見を収集し、地域が求めていることと、ジオパーク活動にできることの整合性を図り、実効的な基本計画となるように検証や改善を行いながら事業を進めていきます。

■磐梯山地域におけるジオパーク活動の意義を改めて考えていくとともに、地域が抱える課題（人口減少対策、観光入込の増加、自然環境の保全など）の解決に対するジオパーク活動の有用性や成果を地域の強みとして認識することで、一人でも多くの地域住民と情報等を共有し、活動の見える化につなげていきます。

■子供たちが学んできた地域の歴史や文化、成り立ち、火山防災に関する教育などを、地域住民にも還元できる仕組みづくりを行うとともに、各町村で1名ずつ雇用している「地域おこし協力隊」や「会計年度任用職員」、令和元年度から任用を始めた事務局支援員らとともに、運営委員や事務局、専門家等が協力し、アンケートの実施やイベント参加者からの聞き取りなどにより、情報を収集してエビデンスの獲得につなげ、地域住民の方々が理解し、興味を持てるよう継続的に基本計画の検証作業を実施し、協議会と地域が一体となって持続可能な地域づくりを目指します。